

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- ①授業のねらいを明確にして見通しをもたせ、分かる授業を展開するとともに、メタ認知向上の一途としての振り返りを行う手法を定着化させる。
- ②学び合う姿勢を大切に、問題解決的な学習や言語活動を積極的に取り入れ、思考力・判断力・表現力を高める指導方法の工夫・改善を図った授業を推進する。
- ③生徒による協働の対話の時間を單元ごとに確保し、多様な意見や考えが出せる課題を設定し、ICT機器を使用しかつ、ファシリテーションの手法を用いて、言語活動の活性化や促進化を試みる。
- ④数学科・英語科では指導方法工夫改善加配教員を活用した習熟度別・少人数授業を行う。さらに英語科では英語指導助手を活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るとともに、コミュニケーション能力の向上及び生徒の実態に応じた指導の充実を目指す。
- ⑤保健体育では、救命救急講習会やダンスの授業を関係機関や大学の協力を得ながら実施する。また、体力テストの結果を分析し、課題を授業に反映する。
- ⑥家庭科では栄養士とのチームティーチングや講師による食育の授業を展開していく。
- ⑦運動会や合唱コンクールなどの学校行事と教科の関連を図った指導計画を作成し、生徒の関心・意欲の向上を図りながら、自分で考え行動する力を身に付けさせる。

イ 特別の教科 道徳

- ①「考え、議論する」道徳の授業を通して、多面的・多角的に考える力を身に付け、人間としての生き方についての考えを深めさせる。
- ②道徳教育推進教師を中心として、教育活動全体と道徳の時間との関連付けを図りながら、「命の教育」を推進し、自他の生命を大切にし、他を思いやる心を育てる。

ウ 総合的な学習の時間

生徒に身近で興味あるテーマを設定することで、学習や課題に対して自ら進んで探求したり協議したりすることを通して、課題を解決していく能力を育てる。また、レポート等の紙面発表、口頭発表、プレゼンテーションソフトを用いた発表と、発達段階に応じた指導計画を作成することで、表現力、発表力を育成する。さらに、インターネットや学校図書館を活用することにより、情報収集・活用能力の伸長を図る。またSDGs学習について取り組む。

エ 特別活動

- ①運動会や合唱コンクール等の学校行事や生徒会活動を通して、生徒一人一人の活躍する場を大切にし、成就感や充実感を味わわせ、集団への所属感を深めさせる。
- ②学校保健委員会の機能を活用し、生徒の活動や外部講師の講演を通して、健康教育を学校及び地域に広げる。
- ③生徒会主催の落ち葉清掃などのボランティア活動の充実を目指す。